

平成24年度 学校自己評価システムシート

(県立特別支援学校さいたま桜高等学園)

目指す学校像	個々の生徒の持てる力を最大限に発現できる教育実践により、一般就労率100%を目指す
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 県委嘱研究の取組を通して本校教育課程の成果と課題を明らかにし、その改善充実を図る 2 就労支援部を中心に学年・学級・学科の協働により個を生かす就労支援を推進する 3 個を生かし調和のとれた心と体づくりを推進する 4 特別支援教育のセンター的機能や地域と連携した活動を推進する
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	10名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年度評価(2月12日現在)		
年 度 目 標					年度評価(2月12日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の生徒が「わかる・できる」授業を実践するため、研究授業・授業公開の機会を増やし、教員間で授業を見合い、生徒の障害特性に応じた指導が展開されているか検証する必要がある。 職業教育・キャリア教育の視点に基づいた指導内容の精選と検討を進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 「わかる・できる」授業を目指し、個別の指導計画に基づいた指導を展開する。 教育課程の改善・充実に向けた研究に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ①個別の指導計画を活用し、個々の生徒の各教科等の目標や課題を明確にして、共通理解の下、個に応じた効果的な指導を展開する。 ②県教育委員会委嘱研究に取り組む中で、研究授業、授業公開を行い教育課程の改善・充実に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ①職員の共通理解の下、個に応じて個別の指導計画を活用した指導が展開できたか。 ②次年度に向けて具体的な教育課程の改善・充実策を策定できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①「個別的教育支援プラン」と「通知表」を一体化させ、個々の生徒の目標や課題を担任・副担当・保護者・生徒本人と共有し、個別面談で学習状況の確認を進め、「授業がわかりやすい」と感じた生徒が約9割に上がった。 ②本校で初めて全教員が研究授業を参観できる日課を組み、グループ別に分かれての授業研究会を2回計画・実施し、協議の柱にそった学科を超えての授業改善・授業力向上についての活発な意見交換となった。 また、来年度の教育課程について、検討・改善を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度実施した県教育委員会研究委嘱で研究を進めた「個別的教育支援プラン」の活用法や授業力向上の研究に取り組み、「わかる・できる」授業づくりを進めたい。
2	<ul style="list-style-type: none"> 全職員の連携協力による就労支援体制により、実習の課題を授業で改善する等、生徒の支援が充実できたが、実習先企業開拓の減少などの課題も明らかになった。一般就労率100%の実現に向けて、家庭や関係諸機関との連携を強化しながら個々の生徒の就労支援にあたる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒の個性や課題を共有し、全職員で統一した就労支援を行い、個々の特性に合った進路を実現し、一般就労率100%を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ①全ての教職員が就労支援に係ることで、生徒の学校生活や実習における課題について共通理解を図り、効果的な指導を展開する。 ②実習先開拓用のリーフレットの作成・配付と共に、電話による実習先開拓週間を設け実習先の開拓に取り組む。 ③保護者や関係機関、企業と連携した就労支援事業に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ①全職員が連携、協力して指導にあたり、3年生全員の進路実現ができたか。 ②実習先企業の開拓が進み、産業現場等の実習に取り組めたか。 ③関係機関と連携した就労支援事業が実施できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①就労支援部担当を増員し、担当と担任団で定期的な打合せを持ち、生徒個々の課題や実習体験を踏まえ、授業等に反映させ、一般就労率100%に近づいた。 ②企業向け実習依頼リーフレットの作成・配布、職場開拓強化期間の設定などの取組を通し、全教職員で実習先の開拓にあたり、新規に85社を開拓した。 ③2回で延べ118名参加した企業向けの障害者雇用セミナーや延べ79名参加した関係機関との就労支援連絡会を実施し、連携を深めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 開校から6年が経過し、担当教員の異動が進む中、業務等のマニュアル化を検討するなど、教員の実践力向上を目指す取組をすすめ、一般就労率100%を目指す支援体制を整えたい。 また、関係機関との連携、情報発信、センター的機能の役割等についても、工夫・改善していきたい。
3	<ul style="list-style-type: none"> 学校内外の行事等において生徒が活躍をし、成果が上がっているが、さらに活躍できる場面を多く設定し、生徒も保護者も満足できるの学校生活を目指していく必要がある。 こころとからだの健康学習について、学校での学習に留まらず、保護者に向けても発信し、学校と家庭との連携を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活を楽しみ、自信を持って活動し、自ら課題を見つけて解決に向けて努力できる生徒を育成する。 問題行動の発生防止や早期解決に努め、心身のバランスがとれた生徒を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①個を大切に、生徒に寄り添った指導・支援により、学校行事や部活動、実習や各種コンクール等への参加を通して、達成感や達成感を味わうことができるようにする。 ②全職員の共通理解と連携の下「こころとからだの健康学習」を実施するとともに保護者に対して理解啓発の機会を設ける。 ③生徒相談体制を充実させ、問題行動の発生防止や早期解決に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①実習や学校行事、部活動を通して達成感や達成感を味わうことができたか。 ②全職員の共通理解の下「こころとからだの健康学習」を充実させ、保護者の理解も深め生徒の悩み等の問題に対応できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①全国アビリンピック優勝・全国障害者スポーツ大会優勝・彩の国ふれあいピック優勝をはじめ各大会での活躍し、部活動満足度が95%を超えた。また、上大久保地区敬老会等の地域行事への参加、体育祭・文化祭等学校行事への取組では、生徒の活躍が顕著であった。 ②「こころとからだの健康学習」をLHR・総合的な学習の時間に位置付けて実施し、次年度からの教育課程での取り扱いなどを整理した。 ③特別支援教育コーディネーターと生徒相談部を軸とした支援体制で生徒の抱える問題解決に取り組む体制を整えた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「部活動が学校生活を豊かにしている」と95%を超える保護者がアンケート回答しているように、部活動・各種大会・学校行事・地域行事等の参加や資格取得等への挑戦等を通して、生徒が心身ともに健やかに成長できるように支援したい。
4	<ul style="list-style-type: none"> 高等学校や地域の小中学校の要請に応じて、積極的に特別支援学校のセンター的機能を推進すると共に、実習や交流及び共同学習を通して関係を深める事が大切である。 校区等との合同企画や地域の学校応援団との協働を進め、地域の学校として愛されるように更に理解啓発を推進する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 高等学校等に在籍する、特別な教育的支援を必要とする生徒に対する支援を行う。 さまざまな交流活動や実習等を通して理解啓発を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①高等学校等の要請に応じた研修・相談支援の他に、公開講座で高等学校教員向けの研修会を実施する。 ②地域における販売活動や植栽活動、清掃活動や学校応援団との協働活動を実施する。 ③常盤高等学校と連携を図り、実習や行事等における交流活動の機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ①高等学校等の要請に応じた支援を行うことができたか。 ②理解啓発を図るために、地域と連携・協働した活動や、高校生等との交流活動を進めることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①夏季休業中に高等学校等教員を対象とした公開講座を開講、高等学校等への巡回支援回数も25回を数えた。 ②ブラザウエストでの販売実習や植栽維持管理、小学校バザーでの販売活動を通して地域と交流した。 ③隣接の常盤高等学校と、初めての合同避難訓練の実施や文化祭へ家政技術科生徒が喫茶サービスの活動を通して参加するなど、積極的に交流を深めている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 地域との連携では、大きな成果を残した。引き続き、積極的な情報発信を検討したい。 また、特別支援学校のセンター的機能を活用し、教員の障害についての理解推進や高等学校等の支援要請にも応えようと、中学校段階における障害のある生徒の就労に関する支援・相談の実施についても検討していきたい。

学校関係者評価
実施日 平成25年 2月18日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> 達成状況について、このシートを見ればすぐに分かるように改善してほしい。特に、評価指標に重点を置いてシートを作成してほしい。 県教育委員会委嘱研究での授業改善・授業力向上の取組は、大いに評価される。次年度も継続してもらいたい。
<ul style="list-style-type: none"> 実習を積極的に教育活動に取り入れ、就労率100%に近づいているのは大いに評価される。今後は、卒業生の就労定着率を高める体制作りも課題としてほしい。就労支援センターとの連携を工夫したり、校内共通理解を進める必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートについて、活用法の工夫が必要である。時系列での検証や、第三者に評価をもらうなどが考えられる。 こころとからだの健康学習については、家庭の協力も必要と考えるが、学習内容も家庭には十分には伝わっていないので、協力体制を整える必要を感じる。
<ul style="list-style-type: none"> 学校教育活動を理解してもらうために情報発信方法を工夫してもらいたい。 地域との交流は年々強くなっている。ブラザウエストにおける取組での頑張りと、高く評価されるべきと感じる。 特に地元自治会との交流については、他県からも評価が高く、多くの視察等を受入れて、取組の現状説明や情報提供にも応えた。